



# 最優秀賞

## きっと、なれる (匿名希望)

「嫌い。」自分のことを好きか嫌いか訊かれたら、私はこう答える。なぜなら、私の体はあっちもこっちも悪いからだ。呼吸は酸素ポンベの助けがないと満足に出来ず、栄養は中心静脈栄養で摂っている。手先の細かい作業や歩く事も、関節の装具をつけながら。それらの医療具をつけて外出するためらいや、痛く苦しい事も多くある。入退院の繰り返しで、皆のようにはなかなか学校へ行けず、将来どうなるかもわからない。肺に腸、心臓、関節…と悪くなり、人と違う所が増えるのは、自分の嫌いな所が増えるという事だった。

周りの子を見渡せば、大人への階段をするすると昇り、自分の力で未来を切り拓いていっている。それに比べ、体の都合で出来ない事が増え、医療の助けがないと呼吸すら自力で普通に出来ない自分が情けなかった。誰よりも頑張る気持ちだってあるのに、その気持ちに体がついていかない悔しさ。早く他の子との違いを認めて大人にならなければと思う焦り。一生治らない病気を背負ったまま、大人になる階段を昇っていくのは、想像以上に過酷な事だった。

そんな時、重すぎる荷物を背負い潰されそうになりながらも、なんとか大人になろうと、あがき、もがき苦しむ私を見て、主治医がこう言った。「でも、大人って自活してる人だけを指すのかなあ。」

今、私は多くの方に支えて頂いている。家族は勿論、いつも病院の先生や看護師さん、助手さんにお掃除のおじさん達が私を楽しませて下さるので、闘病生活は苦しいはずだけれど、笑っていられる。本当にありがたい気持ち



ちで心がいっぱいだ。そして思った。「私も周りを笑顔に出来るような大人になりたいな。」と。私は自分1人だけの力で生活していけるような大人にはなれないかもしれない。でも、しっかりとありがとうの気持ちを伝えたり、人の心の痛みなどを想像する事の出来る大人にはなれる。何があっても前を向いて生きていける芯の強い大人にも、きっと、なれる。

私は、とある代謝がうまく行われぬ結果、臓器や関節や血管など体中が脆弱になり、様々な病気を引き起こしてしまう、治療法や薬も一切ない、非常に珍しい先天性疾患だ。

こんな自分が嫌いだった私だけれど、探せば見つかった。好きな所が、ひとつ。これもちょっぴり珍しいもの。病気には奪えないもの。それは、にこにこ笑った時に出来る、ほっぺのえくぼだ。

笑顔は副作用のない薬。周りも笑顔になれる薬。体は弱いけれど、心は強くありたい。

